

『教育虐待』について考えてみましょう

教育虐待という用語は、2010年代以降に使われるようになってきました。教育虐待は親をはじめスポーツや習い事など様々な教育に関わる場面で、子どもの心身が耐えられる限界を越えて教育を強制することと定義されています。

1. 教育虐待をしてしまう親の8つの特徴

- ①自分の学歴にコンプレックスがある。
②自分が社会的成功を収めている。
③世間体を気にする。
④きょうだいや親戚と比較する。
⑤子どもを自分の作品のように思っている。
⑥子育て以外に打ち込めるものがない。
⑦環境に巻き込まれ不安になる。
⑧幅広い視野や情報をもっていない。

2. 教育虐待が子どもに与える影響

精神的な悪影響

否定的な言葉を浴びて育った子どもは、自然と自己肯定感が低くなり、他者と人間関係を築いたり、何かに挑戦したりすることに困難を覚えがちです。「失敗したら怒られるのではないか」という恐怖心を恒常的にもつこと

で、かえって知的な発達や好奇心が阻害されてしまうことも考えられます。場合によっては、うつ病などの心の病気がかかってしまうリスクもあります。

肉体への悪影響

教育虐待で体罰などが行われている場合は、肉体的にも悪影響が出ます。たとえば、「テストの点が悪いと食事を抜く」「睡眠時間を削っても勉強させる」「食事は長い時間をかけても残さずに食べさせる」「運動中、水分補給をさせない」などの仕打ちを普段からしていたら、子どもの健全な発育は望まれません。

親子関係の悪化

虐待行為の中で形成された親子関係は劣悪なものになります。教育虐待が呼んだ最悪のケースとして、親が子を、あるいは子が親を殺してしまった事件があります。

3. 「教育熱心」と「教育虐待」

違いのポイントは、「子どもを尊重することの大切さを知っているか」「子どもに共感する力があるか」です。教育熱心か教育虐待かの違いは、子どもの側の苦しさを決まります。それは、親が子どもをどうとらえているかに左右されます。

4. 教育虐待を防ぐために

まず、子どもを一人の独立した人間であることを認め、子どもの性格や能力、適性、価値観、成長具合などを冷静に見極めましょう。

次に、子どもが嫌だと思った場合に、親の機嫌を伺うことなく「ノー」と言える信頼関係が必要です。子どもであっても「自分のことは自分で決める」のが原則です。ノーの理由を聞いた親は、まずそれをしっかりと受け止めましょう。

5. まとめ

教育虐待は、多くの場合、親の熱意が行き過ぎて起こってしまいます。早めにその危険性に気づき、子どもへの接し方を改めることが、子どもの健全な成長や親子関係の改善につながります。



市教育委員会生涯学習課
人権教育推進室(新教育庁舎2階)
TEL 32-3814
FAX 33-1230
jinkenkyouiku@city.komatsushima.jp

市民文芸 花みずき歌壇 (115) 山崎泰子・選

海人の少年ならば蒼天をわがものとするアカギの木たれ
中田町 湯浅 百世

私も深夜の月につぶやくと葉書にとどく楷書一行
小松島町 萬宮千鶴子

傷寒論読めば益々深くなり霧に封され林に迷う
松島町 萬野 行子

柀目より少しはみ出て撥音はとび跳ねており原稿用紙に
松島町 六田 靖子

手で靴でぐじゅりぐじゅりと泥遊び大きな虹が見えた園庭
日開野町 森 理子

拾いても拾いてもまだ届かざり私に遺した母の足跡
立江町 湯浅かや子

風船を孫と一緒に見失う 雲が食べたと一緒に笑う
横須町 天王谷 一

鳩へとカラス群れ飛ぶカオカオと今日の苦勞はこの日で足りる
前原町 福元 英夫

二人してゆったり歩む散歩道 天に青空地に並ぶ影
小松島町 綴木 茂治

猫のこと短歌のことを話題とし淡々と生く加齢とともに
中田町 松並 敦子